



ブック

ジブリの少女やデイズニープリンセスは、何と戦い、どう働いたのか。筆者は、『風の谷のナウシカ』などのポップカルチャーに登場する戦闘美少女を社会的視点から分析する。次に、労働を軸として考察を深める。

少女たちが文字通りに「働く」

ジブリ作品をはじめ、現代に氾濫する「解放された」女性たちの多くの物語を取り上げ、これを女性の労働の現実と対比して問題を論ずる。

ただし、大幅な規制緩和によって自由競争を促す「新自由主義」、工業化社会にはなかった労働形態を出現させる「ポストフォードイズム」によって、過去のフェミニズムは今日では通用しなくなっただけとも言える。

たとえば「魔女の宅急便」の仕事は肉体労働であるはずだが、「笑顔」「大事な心」などの



戦う姫、働く少女

河野真太郎 著

1944円 堀之内出版
☎042-682-4350

言葉で表される感情労働が主になり、他の労働が隠蔽されたと言及する。さらに、筆者は、主人公がアイドル化したことについて、新たな労働ではあるが、「全存在を労働に提供する姿」と警鐘を鳴らす。また、別の章では、「会社に使われない新しい生き方」と称して、会社とキヤリアから「選択的に離脱」し、健康で持続可能な環境保全を目指す「主婦回帰」の流行について、主たる収入源の男性が危うくなっている現在では「砂上の楼閣」と釘を刺す。

評者は考える。ポップカルチャーのおかげもあってか、幸福感が強い個人完結型的女子が増えている。彼女たちに過去のフェミニズムを押しつけることもあるまい。だが、社会に出て「解放されていないこと」に気づくのでは気の毒だ。ポップな楽しみを持つつも、労働と生活をリアルに選択する力を育てる必要がある。

(聖徳大学教授・西村美東士)